

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200076		
法人名	医療法人社団 聖山会		
事業所名	グループホーム 風早の里		
所在地	千葉県柏市塚崎 997-3		
自己評価作成日	平成31年6月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8
訪問調査日	平成31年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設ではグループホームならではの個別ケアに力を入れています。個別ケアの一環として1対1の会話をし、ご本人の心理状態の把握、体調の把握を行い。またレクリエーションでは1対1の散歩、買い物、少人数でのドライブ、外出レクには出来るだけ参加して頂き1対1で対応しています。ご入居者様の体調管理に関しては母体が医療法人であることから、緊急時、急変時には24時間体制で行なえる用意をし、訪問看護との協力体制を整え看取り介護にも力をいれています。毎日ゆったりと過ごして頂ける事がスタッフの喜びです。「自然にあふれる笑顔」を大切にして、風早の里での時間をゆくりと流れるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム風早の里」は平屋建てのバリアフリー環境が整った施設で、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。施設の庭には、ヤギが飼われており、入居者の癒しに繋がっている。母体が医療法人であり、24時間の連携が可能となっていると共に、訪問看護とも連携し、緊急時・急変時には適切かつ迅速な対応が行えるよう体制を整えている。職員は、入居者の個別支援に力を入れており、日頃の関わりから、意向やニーズの把握に努め、柔軟な支援を実践している。毎月、「さくら通信」「すみれ通信」を発行し、写真を交えながら、入居者の生活状況等を伝えており、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「自然にあふれる笑顔を大切に する」を基本とし、スタッフは笑顔を心がけ 家庭的な雰囲気の中、入居者様が毎日笑 顔で生活が送れるよう支援している。	「自然にあふれる笑顔を大切にする」と言う 施設理念を掲げ、施設内に掲示している。ま た、新人職員にマニュアルを配布していると 共に、業務の中で理念の浸透を図っている。 日頃から、職員全員で理念に基づいたサー ビス提供を意識して支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ るよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	自治会に加入。福祉専門学校の実習生の 受け入れを行っている。近所のボランティア の方のやぎさんお預かり(草むしり)	自治会に加入しており、地域との繋がりを大 切にしている。また、地域の民生委員等を施 設行事に招待したり、フラダンスのボラン ティアを月一回受け入れる等、地域との交流に 努めている。その他、地域の小学生による 「町たんけん」の受け入れや専門学校の実 習生受け入れも行っており、世代間交流の 機会も設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	入居希望の電話での相談、入居されている ご家族の相談に随時対応している。飛び込 みでいらした方とのお話。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	包括支援センター・地区社共・民生委員・ご 家族・入居者を交えての現況報告、出席者 の要望、意見交換等を行い可能な限りサー ビス向上に努めている。	地域包括支援センター職員・民生委員・入居 者・家族・職員・法人幹部・訪問看護職員等 を構成員として、年に4回、運営推進会議を 開催している。会議では施設の活動報告や 意見・情報交換等を行い、施設の理解促進 に努めると共に、挙げた意見をサービスの 質向上に活かしている。	運営推進会議は開催されているもの の、会議の議事録が適切に整備され ていない。今後、適切に整備し、職員 等への周知や運営の振り返りに繋げ ていただくことを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	柏市グループホーム連絡会の会議に出席 し、市との意見、情報交換を行っている。高 齢者支援課、地域包括センターに直接訪問 したり電話により不明な事項等を相談し早 期に解決できるように連帯している。	日頃から市に対して、業務における相談や 報告を随時行っており、連携を図っている。 柏市グループホーム連絡会に加入しており、 会議や行事を通じて、市職員と意見・情報交 換を行う機会を設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、事業所内での研修を行い、身体拘束防止マニュアルに沿って拘束のないケアを実践している。2.3ヶ月に一度会議を開く	身体拘束排除におけるマニュアルを整備していると共に、内部研修を実施している。また、外部研修にも参加しており、会議での報告を通じて、身体拘束排除における意義を職員全員で共有している。身体拘束廃止委員会を開催しており、身体拘束の無い支援の実践に努めている。	身体拘束排除等の適正化の為の指針を整備すると共に、定期的に委員会を開催し、今後も身体拘束の排除に努めていただくことを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、事業所内での研修を行うと共に、職員のメンタル面に気を配り虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、資料を配布し理解を深められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項の説明を行い不明点がないか確認している。改定の際は文書や口頭にて説明理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談窓口、意見箱を設置すると共に、家族来訪時や電話連絡時に家族の要望、意見を確認上がった意見や要望に対しては申し送りや会議を通して職員に通知、検討し迅速な対応を行っている。	家族の訪問時や電話連絡・運営推進会議を通して、家族の意見・要望を確認している。挙げた意見・要望については、職員間で周知・検討の上、適切な改善に努めている。また、定期的に「さくら通信」「すみれ通信」を家族に送付しており、入居者の生活状況の報告や行事案内等を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議・個人面談時意見や提案を確認し、運営会議で検討、反映させている。	定期的にユニット会議や全体会議を開催しており、職員の意見や提案を確認している。また、連絡ノートや申し送りを活用して、意見や提案を確認すると共に、情報の共有化を図っている。管理者は、職員の希望休をなるべく柔軟に受け入れ、働きやすい環境づくりに努めている。	

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、夏季・冬季の賞与の支給又処遇改善交付金を活用している。資格取得の補助、研修参加等を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修への参加、講師を招いての内部研修を行い、新人研修としてエルダー制度を導入。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の定例会、研修会に参加。又他ホームの見学を通して他施設の管理者、スタッフ間の交流をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活暦や、生活に対する習慣、こだわり精神面を丁寧にアセスメントする事で、ご本人を理解し、個別対応を行い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、真の要望や困っている事を確認、なんでも相談できる環境、雰囲気づくり、何時でも連絡が取り合える体制を整え、職員が周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の言葉やご本人の身体状況からニーズを導き出し、サービスを見極め必要とされるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いを大切に、生活を共に送る家族として、一緒に楽しみ共感し合える環境をつくりご本人に寄り添っていけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回ご本人の日常生活の様子を各担当者が書き送付している(さくら、すみれ通信の発行)。必要時にはご本人の様子を電話連絡し家族が面会に来られる機会をもてるように支援している。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族の意向に添って連絡できるように支援している。入居前の友人、知人との交流、馴染みの場所等を把握し、家族の協力を得て継続できるよう支援している。	家族との面会・外出・外泊を通して、相互の関係継続を支援している。また、少人数又は個別での外出を実施しており、馴染みの場所での買い物等を通して楽しみを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾むような座席の配置に考慮したり会話をスムーズに行う為に職員が間に入り入居者同士が関わり合いながら生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ相談や関係機関の紹介等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人の状態を観察し、ご本人の話を傾聴しながら思いや意向を把握しケアカンファを行い出来るだけご本人の意向に添ったケアの提供に努めている。	家族から身体状況・生活歴・意向等を確認していると共に、日頃から、本人の思いや生活状況を把握し、本人本位の支援に努めている。また、会議や連絡ノート・申し送り等を通して、情報を共有した上で、本人本位の支援を検討し、適切な支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人の生活歴、こだわり、趣味、性格等をご本人、家族から聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態をケース記録、排泄状態、水分食事量、バイタルを個々に記録し、朝の申し送り時に前日の状態、夜間の様子を報告、一人ひとりの状態の把握に努めている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の意向を踏まえ、記録を活用し管理者、居室担当者が介護計画の原案を作成しユニット会議において原案を検討、意見をまとめ介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認評価を行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人や家族の意向を確認した上で、会議で検討を行い、介護計画を作成している。また、定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを図り、現状に応じた支援に繋がっている。	計画作成の検討会議は、職員・医師・看護師だけでなく、本人や家族も交えて実施することにより、現状に即した計画の作成に繋がっていただくことを望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、日誌、健康管理表の記入、毎日の申し送りを通し情報の共有をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合の病院受診や緊急時の受診は家族と相談しながら行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問理美容、地域の高齢者交流会等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診が可能である。状況に応じて管理者、スタッフが付き添う支援を行なっている。定期的に内科医、薬剤師、歯科医による訪問診療が実施されている。又訪問看護と契約を結び健康管理、相談を行なっている。	家族の協力も得ながら、希望の掛かりつけ医を受診していると共に、月に2回内科医の往診を行っている。また、必要に応じて、歯科医の往診も行っている。その他、週に1回の訪問看護や必要に応じた訪問マッサージを実施しており、適切な医療支援を行っている。協力医療機関及び訪問看護とは、24時間の連携体制が構築されており、緊急時や急変における対策を講じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護のときや状態の変化時には、訪問看護の看護師に連絡、報告し指示を受けている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に情報の提供をおこない、面会や電話等で情報収集をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、もしくは終末期においてはご家族と話し合いを持ち、必要に応じてご家族、医師、看護師、管理者、介護スタッフとケアカンファを行い、ご本人、ご家族の意向に添った終末期の支援に努めている。	終末期については、家族・医師・訪問看護と相談しながら支援方法を検討している。また、具体的な支援内容を、職員全員で共有し、本人・家族の意向に沿った看取りの支援が行えるよう体制を整えている。	重度化及び終末期における指針を整備し、本人・家族に説明した上で、チームによる支援に繋げていただくことを望みます。また、重度化及び終末期における、本人・家族の意向確認書は整備されているものの、活用されていないので、必要に応じて活用していただくことを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習を受けている職員、又は訪問看護の方からの指導(24時間体制で連絡がとれる形)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの非難誘導訓練を年2回実施。運営推進会議で家族参加での訓練も行なっている。定期的に火災報知機の取り扱い等を職員で確認、非常時に備えている。	スプリンクラー・自動通報器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、年2回の設備点検を実施しており、災害時の安全対策が取られている。	直近の1年間において、避難訓練が実施されていないので、定期的に計画・実施し、災害時や緊急時に適切な対応が取れるように努めてください。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が理解しやすい言葉を用い、自己決定出来るよう配慮している。言葉使いをスタッフ間で確認しあい人生の先輩として敬意を持ち接する事を心がけている。	入居者一人ひとりの尊厳に配慮し、個別支援や同姓介助を行っている。また、接遇やプライバシーの配慮については、ユニット会議で確認しており、適切な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけの訴えだけでは無く、表情、しぐさ等でご本人の思いを推測し、自己決定が出来るよう問いかけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の状態に合わせ柔軟に対応するよう心がけている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は職員がアドバイスをしながら選んで頂いている。又地元の訪問理美容を使用し月一度のカット等 近くにパーマをかけにお連れする事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力に合わせ、盛り付け、片付けをスタッフと一緒にこなしている。施設の食事以外に出前を取ったり、外食レクを行なっている。	入居者と職員が協力しながら、テーブル拭きや後片付けを行っている。朝食については、食材を購入して調理を行っているが、昼食・夕食は、献立作成と食材の配送を業者に委託し、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、定期的に外食やお弁当のテイクアウトを行っており、食に対する楽しさを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食事量を把握し、摂取量が減少した場合は、食事形態を見直し、ご本人に合った形態で提供又好みの物や栄養補助食品を提供している。水分は決められた時間以外にも提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。週1回の訪問歯科の診療、口腔内チェックをおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握声かけやトイレ誘導で失禁をなくし自立に向けた支援をおこなっている。	排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて対応しながら排泄の自立に向け取り組んでいる。また、必要に応じて、医師や訪問看護師の指示を仰ぎながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、水分補給、腸内環境を良好にする飲み物等の提供を行なうと共に主治医による薬の処方、毎日の運動を心がけている。便秘薬の研修や便秘についての研修を行なっている。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、入居者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は無理をせず、タイミングを待ったりスタッフを交代して入浴をして頂いている。	入居者の体調や希望を確認の上、週2～3回入浴を実施している。また、必要に応じて、シャワー浴・部分浴・清拭等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の状態を把握し、自由に生活できるように気を配り、疲れている様子が有れば、声かけを行い居室で休んで頂く。夜間の睡眠状態を把握し個々に合わせた支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ルールに沿って誤薬が無いように服薬介助を行なっている。薬変更時には、目的や用法をその都度スタッフ全員が周知できるように申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗い物、洗濯たたみ、掃除などを無理のないようにお願いし、買い物好きな方には買出し時に同行してもらっている。歌が好きな方にはカラオケ等を楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や時期に応じてドライブや散歩を楽しんでもらったり、季節ごとの外出行事や外食レク等を行なっている。	日頃から散歩・買物等の外出活動を行っていると共に、敷地内のウッドデッキ等を活用して、外気浴・お茶飲みを実施しており、気軽に外の空気に触れらる環境整備がなされている。また、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本施設では管理していないが、紛失する可能性が有ると言う事をご家族が納得されている場合ご本人が持ち買い物時の支払いが出来るように支援している。		

【千葉県】グループホーム 風早の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいとの要望があれば相手先の都合に合わせて使用して頂いている。書ける方に対してはスタッフが協力し書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の飾りつけを行い季節感を感じていただけるよう気配りをしている。空調、換気、湿度に注意し機器の点検、清掃を行い清潔保持に努めている。	施設内はバリアフリーとなっており、十分な介助スペースを設けており、入居者の安全確保がなされている。共有スペースにはソファやテーブルが設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。また、両ユニットの間にウッドデッキが設置されており、気軽に外の空気に触れることが出来ると共に、草花が植栽されたプランターが置かれており、季節を感じる事が出来る環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係に配慮し、自発的な行動が出来るよう配慮している。フローアや玄関にイスを配置し自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族と相談し、馴染みの物を持ち込んで頂き、ご本人が落ち着いて暮らせるよう配慮している。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を自由に持ち込むことが可能となっている。また、布団を敷く事やテレビ・ポータブルトイレの設置も可能となっており、入居者一人ひとりに合わせた居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の名札は、迷わない用に個々に合わせ工夫している。手すりを配置し転倒なく安全に自由に歩行できるように配慮している。		